史上最強の百科チェック

〈なぜ？〉の出発点

実際に百科事典を使ってみましょう

その1 小さな疑問が、すべてのはじまり

お父さん、お母さんもごいっしょに

〈かぐや姫〉は宇宙人…？【竹から生まれ、天へ昇った、かぐや姫】

絵本や童話には『グリム童話』の赤ずきんや白雪姫など、沢山の「昔話」があります。〈空〉への憧れを物語るものも多く、〈天〉へ昇ったかぐや姫の『竹取物語』も……。

桃から生まれた『桃太郎』、瓜から生まれた『瓜子姫』など、「竹」「桃」「瓜」などの植物を調べると、日本や中国では、これらに不思議な霊力があると思っていたのです。竹は節目正しくまっすぐで、冬でも青々した「君子の植物」です。中国のチベット族には、かぐや姫と同じような話があります。

かぐや姫は最初、小さく美しい女の子でした。そういえば『一寸法師』も小人、古事記に出てくる「少彦名命」も小人です。「小人には不思議な力があり、偉なるもの」と信じられていました。外国にも小人の話があります。

成長したかぐや姫は明るい満月の夜、迎えの天人たちと「月」の世界へ昇っていきました。月にも世界中に多くの伝説があり、俗世な社会とかけはなれた、清く永遠なるものの象徴ともいえます。神秘な宇宙にはどんな人が住むのかという思いがあることを、「宇宙人」という項目が告げてくれます。

うちゅうじん 宇宙人

地球外の知的生命体の総称。ナスカの平原画のようなものの多い遺跡を根拠として、彼らが太古の地球を訪れたことがあると主張する学者もあるし、現代の地球へも来ていると主張する人もいる。一般にUFO（未確認飛行物体）とされているものは宇宙人の乗物であるといわれているが、今のところこうした考え方に対しては否

（中略）

日本の〈竹取物語〉のような月人伝説は世界中にみられ、物語に登場する宇宙人の歴史も古い。シラノ・ド・ベルジュラックの『月と太陽諸国の滑稽物』（1657，62）にも太陽系諸惑の住人が登場するが、この

（後略）

タケ 竹 bamboo

（中略）

【タケと人間】

「中国」　竹は節目正しく、まっすぐに生

（中略）

伝承も古くより行われ、〈後漢書〉西南夷伝には、夜郎の国の始祖は、川を流れてきた大竹より生まれた男の子であり、そこで姓を竹と名のったと見える。また、四川省チベット族に伝わる〈淡竹姑娘〉の物語は、竹の中から生まれた美女が、権勢をたのんだ求婚者たちに難題を課して撃滅するというもので、日本の〈かぐや姫〉の説話ときわめてよく似ている。

（後略）

❸ ーモクツケチク
（一部抜粋）たけのこと小枝のついた枝と葉。

たけとりものがたり 竹取物語

平安前期の物語。1巻。別称〈竹取の翁物〉〈かぐや姫の物語〉〈竹取翁物語〉。作者不詳。成立時期は諸説があるが、9世紀後半から10世紀の初め、〈古今集〉成立以前とみられる。現存本はその後多少の改補がある。

［あらすじ］　昔、竹取の翁という者が竹の中から見つけ出して育てた3寸ばかりの小さな女の子は、3月ほどで輝くばかりの美女となった。その後、翁は黄金の入っ

（中略）

［構成］　竹の中から子どもを発見し、誕生の経過をへて、その子が昇天するという伝奇的な主題の〈かたりごと〉竹取説話を土台にして、①かぐや姫の生いたち（化生説話、貴種流離説話）、②貴族たちの求婚（求婚難題説話）、③帝の行幸（和睦説話）、④姫の昇天（羽衣・昇天説話、貴種流離説話）、⑤富士の煙（地名起源説話）というような構成である。それは先行かたりごとの諸種の話型をとり入れ、伝統的な、人々になじみの深い外来を活用しつつ、平安王朝

（中略）

［作者について］　このような世界を描き出して見せた作者は、現実の貴族社会の俗悪面に矛盾を感じつつも、なお人間世界での清純なものにあこがれた人で、和・漢・仏教等の教養ゆたかな男性であったようである。作者については、従来、源順説、藤原説、僧正遍昭、菅原氏の一族などの諸説があるが、確証はない。〈竹取物語〉

（後略）

その2 索引を使えば知りたい情報もすぐに

平成19年度センター試験 日本史A第2問より

ドイツ人医師［ア］は、1823年にオランダ商館の医師として来日した。彼は、長崎郊外に［イ］を開き、多くの人材がここで西欧の医学や博物学を学んだ。1828年に帰国しようとした［ア］の荷物の中に、持ち出しを禁じられた日本地図などが含まれていたため、彼は国外追放となり、提供した天文方高橋景保は死罪となった。〈以下略〉

問1　空欄［ア］［イ］に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

①ア　ペルツ　イ　鳴滝塾　　②ア　ペルツ　イ　蘭学塾
③ア　シーボルト　イ　鳴滝塾　　④ア　シーボルト　イ　蘭学塾

シーボルト Philipp Franz Balthasar von Siebold 1796-1866

（中略）

許可を得て長崎郊外鳴滝に学塾兼診療所（"鳴滝塾"）を開設した。吉雄耕牛ら助手オラ

（中略）

江戸で天文方高橋景保、幕医土生玄碩らはじめ蘭学者と交際を深めた。28年、いわゆる"シーボルト事件"が起こって、翌年

（後略）

なるたきじゅく 鳴滝塾

"シーボルトが長崎に設けた学舎。シーボルトは1823年（文政6）に出島商館付医師として日本に着任し、長崎奉行の特別の好意により、はじめ商館の外科室で、ついで市内の外科医吉雄幸載および楢林宗建の私塾を借りて、患者の診療と医学生の教育にあたった。しかしまもなく門人や患者がふえたため、翌年には奉行の許可を得て長崎郊外の鳴滝に学舎を設けた。学舎は、シーボルトの研究室および画室

（後略）

たかはしかげやす 高橋景保

1785-1829（天明5-文政12）

江戸中期の天文地理学者。通称は作左衛門。号は観巣または蓬蔵。父至時の死後、天文方を継ぎ、幕命により世界地図作成に従事し、1810年（文化7）〈新訂万国輿地全図〉を完成。他方、"伊能忠敬の実測を基に〈大日本輿地全図〉を作成した。また蘭語を研究して〈蘭文和訳集〉を編んだ。26年（文政9）に幕府はシーボルト

（後略）

シーボルトじけん シーボルト事件

1828年（文政11）に起こった洋学者弾圧事件。オランダ商館付医員シーボルトは、1826年にオランダ商館長の江戸参府に随行し、江戸の洋学者と交流した。幕府天文方"高橋景保からは、クルーゼンシュテルンの〈世界一周記〉等と交換に、伊能忠敬の日本沿岸実測図をもとにした地名入りの日本略図、蝦夷地図、間宮林蔵〈東韃紀行〉を贈られ、幕府眼科奥医師"土生玄碩"からは、開腹術伝授と交換に将軍拝領の葵の紋服を贈られた。28年に、帰国のためにそれらを含む収集資料を積み込んだ

（後略）